

## 想像力と創造力

創造を  
想像する

▲鈴木歌乃さんの作品「むげんにおよげる水ぎ」

## ■特許庁長官賞を受賞

公益財団法人発明協会が開催する令和5年度「第46回未来の科学の夢絵画展」において、平沢小学校3年生（当時2年生）・鈴木歌乃さんの作品「むげんにおよげる水ぎ」が特許庁長官賞を受賞しました。

この絵画展には全国から7、911点の作品が出展され、歌乃さんの作品は小学校・中学校の部6、157点の中の第3位にあたる賞を獲得しました。ちなみに、第1位にあたる文部科学大臣賞と第2位にあたる経済産業大臣賞にはそれぞれ石川県と岐阜県の中学生が選ばれており、小学2年生だった歌乃さんの受賞がいかにすごいかがわかります。今号の表紙でも歌乃さんと作品を大きく紹介しておりますのでご覧いただけたと思います。

## ■多くの子どもたちも参加

発明協会は、子どもたちの想像力と創造力をのばすために、毎年、「全日本児童学生発明くふう展」と「未来の科学の夢絵画展」を開催しています。

昨年でも市内小学校の子どもたちの多くが授業などで作品を制作し、発明くふう展には44作品、未来の科学の夢絵画展には370作品をそれぞれ出展しました。

作品を制作している子どもたちの姿を想像すると、たぶん楽しさと苦しさの両方を感じつつ、ワクワクした気持ちでアイデアを形にしていってるんだろうなと思います。大切なのは、試行錯誤をくり返し、想像したものをとにかく形にしてみるのだと思います。

## ■アインシュタインとチャップリン

アインシュタインは、「想像力は知識より大切である」と言っています。アインシュタインが言いたかったのは、「知識を知識で終わらせるのではなく、その知識を想像力の源にすることができるか、知識を使いこなせるかが大切である」ということだと思います。

また、チャップリンは、「人生で何よりも大切なのは創造力である」と言っています。喜劇王としてたくさんの想像力を働かせたチャップリンは、自分のアイデアを映画という形で表現しました。いま私たちが彼の愉快さを楽しむことができるのは、彼が創造した映画作品があるからです。そう考えれば、チャップリンが述べた「人生で何よりも大切なのは創造力である」の意味をすんなりと理解することができそうです。

知識や経験をもとに新しいアイデアを生み出す力を想像力とするならば、その想像力にもとづいて今までなかったものを作り出す力を創造力と言うことができます。つまり、「想像」の先にあるのが「創造」ということになります。

このように、20世紀最高の物理学者アインシュタインと喜劇王チャップリン、この二人の言葉を繋ぎ合わせれば、「想像」を「創造」することの大切さをあらためて知ることができると思います。

## ■世界青少年発明工夫展

おそらく私たちのだれもが「息づきをしないで魚のように水中をずっと泳げたらいいな」と考えたことがあると思います。歌乃さんの素晴らしいところは、多くの人が想像したであろうことを、大胆なタッチの絵画をもって視覚的に表現したことです。まさに頭の中の想像を絵で創造したことが評価されたのだと思います。

歌乃さんの作品は、8月に台湾で開催された「世界青少年発明工夫展」にも出展され、7月のオンラインによる事前審査の結果、世界19カ国から出展された99作品の中で見事、銀賞を受賞することができました。



にかほ市長

市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

